



悠紀齋田のお話し



大正4年6月5日（1915年）

大嘗祭悠紀齋田
お田植え祭り

平成27年6月7日（2015年）

100周年記念





悠紀齋田のお話し



だいじょうさいゆきさいでん

「大嘗祭悠紀齋田のお田植え祭り」がここ岡崎市中島町で

令和7年から110年前に行われました。(大正4年6月5日)大嘗祭とは何か？

なぜ全国から六ッ美村下中島の^{たんぼ}田圃が選ばれたのでしょうか。



アオウミカ
メ



この写真も関係あるの？

西尾軽便鉄道



悠紀齋田のお話し



だいじょうさい
「大嘗祭」とは

ほうぎょ
明治45年7月30日に明治天皇は61才で崩御されました。

せんそ
皇太子が天皇の位を受け継ぎました⇒「践祚」

にいなめいさ
「大嘗祭」は即位後の「新嘗祭」です

ごこくほうじょ
11月に健康と五穀豊穰を感謝をする

こめむぎひえあわきび
五穀：米・麦・稗・粟・黍

「大嘗祭」は天皇が初めての**新米**を天皇の祖先や神々に供え、自らも召し上がり、国家・国民のために平和と五穀豊穰などを感謝し祈念される儀式です。（新米は決められた齋田で作る）



悠紀齋田のお話し



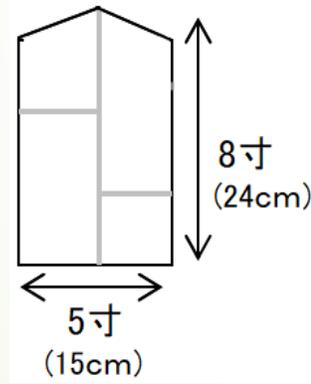
どのようにして齋田の地方を決めるの？

てんていぎ
「**点定の儀**」 (齋田の地方を決める儀式)

さいでん
齋田：献上する新米を作る田

きぼく
「**亀卜**」という占いで地方を決める。

T3-2-5



アオウミガメ

その結果 京都より東を「**悠紀**の地方」で愛知県が、

西を「**主基**の地方」で香川県が選ばれた。



悠紀齋田のお話し



どのして六ッ美村大字下中島が選ばれたの？

- ① 1 1 の郡より候補地が提出された。 T3-2-23
- ② 11か所を書類選考して候補地を6か所にした。 T3-2-25
- ③ 県代表者が6か所の田を調査して次の3か所に決めた T2-26~3-4

春日井郡北里村大字小針（小牧市）
中島郡稲沢村大字稲沢（稲沢市）
碧海郡六ッ美村大字下中島（岡崎市）

県の代表者
石原磊三 内務部長
原口晃 理事官産業課長
山崎延吉 農林学校長

- ④ この3か所を農商務省に届けた。
のうしょうむしょう T3-3-5
- ⑤ 六ッ美村大字下中島が最適との返事が来た。
のぶきち T3-3-6

田主は下中島の「早川定之助」さん



悠紀齋田のお話し



中島が選ばれた理由

こうちせいり

①耕地整理が済んでいること

②高橋用水が整備されている



矢作川取り入れ口



高橋用水路

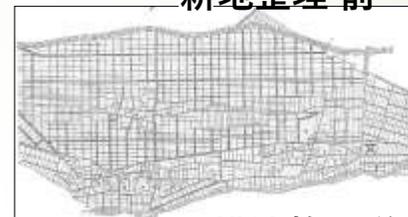
にしおけいべんてつど

③西尾軽便鉄道の中島駅が近くにある

- 1) 西尾駅と岡崎新駅間が明治44年に開通
- 2) 昭和18年12月に廃線



耕地整理前



耕地整理後



西尾軽便鉄道



悠紀齋田のお話し



祓い式前までの準備 (4月22日までに完了させる)

齋田の役員を選らび事務所は八幡社社務所とした

ほうこうしゃ へっかいぐ

奉耕者を碧海郡の各村から選ぶ (碧海郡から122名選出・六ッ美から62名)

奉耕者の衣装を作る。(伊藤呉服店(現在の松坂屋)に依頼)

鍬、千歯扱き、唐箕などの農具を新品で作る

八幡社に次の建物を建てた (潔齋所・農具舎・収納舎)

齋田の整備 (齋田を四つに区割り・正門の設置・周囲に竹矢来)

気象観測所 (朝夕2回観測して県立測候所に週1回報告)

高橋用水の整備



悠紀齋田のお話し



主な儀式

はら

祓い式 大正4年4月22日

- ・多くの行事の中で、最初に行く。
- ・祓い式は、全行事が無事に終了するように祈る。

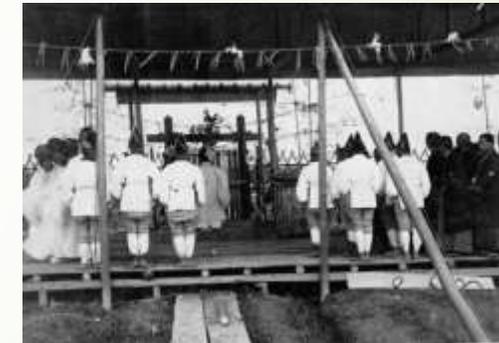
はしゅ

播種式 大正4年4月23日

- ・お田植えまでに順調に育つことを祈る。

みなぐちさい ほうじょうさい

- ・モミ播きが終わると水口祭や豊穰祭。



苗場整地



施肥



モミの選別



モミ播き



悠紀齋田のお話し



田植え式 たうえしき 大正4年6月5日

式に参列した人は700人 齋主は熱田神宮 宮司 岡部 譲



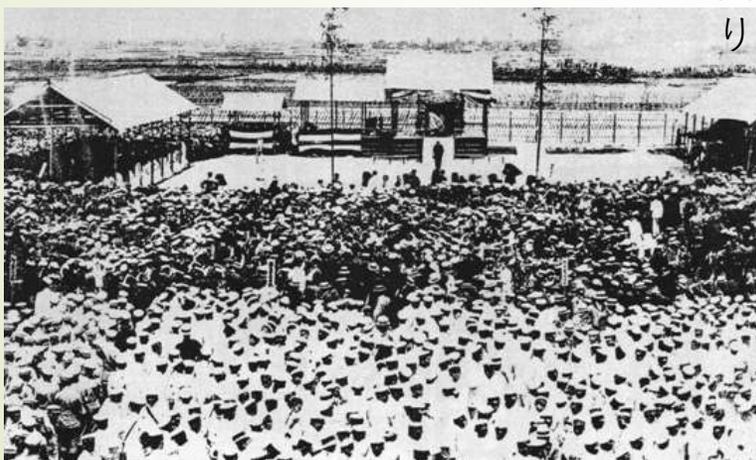
田植え



田植え踊



西尾軽便鉄道



り

国鉄の臨時便

- ・ 名古屋から3便、豊橋から2便
- ・ 岡崎駅から中島まで全員が徒歩のため人が途切れることがなかった
- ・ 3日間で参観者70,000人

西尾軽便鉄道

むがいかしや

- ・ 車両不足のため無蓋貨車で運行



悠紀齋田のお話し



齋田の稲刈りまでの管理

田植えから稲刈りまで

草取り作業5回、害虫駆除、などの作業を行う

(6月20日 7月2日 7月10日 7月20日 9月4日)

害虫駆除は、害虫の卵や幼虫の数を愛知県に報告した



田の草取り



害虫駆除



気象の観測

毎日 朝夕2回 観測
毎週 1回 県立測候所に報告



悠紀齋田のお話し



齋田の主な儀式

地鎮祭 じちんさい 大正4年9月15日

齋田地の西に抜き穂式の齋場を建てるお祓いをする

(稲實殿(いなのみでん)：刈り取った稲穂をお供えする)

(神饌殿(しんせんでん)：お供物をお供えする)



抜き穂式 齋場

一日前大祓い式 大正4年9月19日

抜き穂式の重要さを示す意味から、古いしきたりの

「河原お祓い」(一日前大祓い式)を抜き穂式の前

に行く



大祓い式 式場 参観者3万人



悠紀齋田のお話し



ぬきほ
抜穂式 ぬきほしき 大正4年9月20日

けんじょうまいさぎょう
献上米作業の一連の行事で最も重要な儀式

神殿前で『抜穂の儀』が行われた

田主と雑色人で稲穂を刈取り稲實殿^{いなのみ}に奉納する

雑色人(ざっしょくにん)：田主の手伝い(10人)

稲實殿(いなのみでん)：稲穂を保管する



稲實殿



悠紀齋田のお話し



稲刈りから 大正4年9月25日～



稲刈り



脱穀（千歯扱き）



もみ殻分け



粳摺り（もみすり）



選別米



白米磨き



悠紀齋田のお話し



供納米京都へ出発 大正4年10月15日～



八幡社で供納米の点検



供納米（美矢井橋）



安城駅で列車に積込



供納米特別列車



京都御所清所門
きょうとごしよせいしょもん



齊庫に納入



悠紀齋田のお話し



その後の齋田（資料室）

大正8年現在の六ッ美体育館駐車場に「齋田記念館」を建設

昭和62年六ッ美商工会移転と同時に「齋田展示室」移転

平成25年6月9日現在の資料室ができた

お田植え祭りの継承

後継者を中心に地元の有志でお田植え祭りを継承

戦時中は南部小学校の実習田として管理保全

戦後細々とながら有志の熱い思いで継続

その後総代会のバックアップで充実した保存会へ

主基保存会との交流

ゆかりの町提携